

「福祉サービス第三者評価を準用した調査」結果報告書(令和6年度)

2024 年 11 月 29 日

社会福祉法人 ゆきわり会
幼保連携型認定こども園 認定こども園SHINJO
理事長 関 良 様

郵便番号 211-0005
所在地 神奈川県川崎市中原区新丸子町727-3
リバービューハイツ302

評価機関名 一般社団法人 チーム結



認証評価機関番号 機構 21 - 255
電話番号 044-819-7931
代表者氏名 新井 結花

以下のとおり調査を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	新井 結花	福祉	H0802032
	②	久保田 義徳	組織	H0802014
	③	益子 恵美子	福祉	H1401043
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別		認定こども園		
調査対象事業所名称		幼保連携型認定こども園 認定こども園SHINJO		
事業所連絡先	郵便番号	038-0042		
	所在地	青森県青森市新城字平岡252-4		
	電話番号	017-788-0874		
事業所代表者氏名		土岐 美穂		
契約日		2024 年 7 月 1 日		
利用者調査票配布日(実施日)		2024 年 8 月 1 日		
利用者調査結果報告日		2024 年 10 月 22 日		
自己評価の調査票配布日		2024 年 7 月 31 日		
自己評価結果報告日		2024 年 10 月 22 日		
訪問調査日		2024 年 10 月 28 日		
調査結果合議日		2024 年 10 月 28 日		
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)		利用者調査は保護者へのアンケート調査を実施しました。保護者が回答しやすくなるよう園内設置の回収BOXへの投函もしくは評価機関に直接返信する方式をとりました。職員には、職員自己評価記入要領を配布するとともに、実施方法は職員説明会を開催し、第三者評価及び職員自己評価への理解を深めました。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

事業者代表者氏名

2024 年 11 月 29 日
〒038-0003青森県青森市石江二丁目8番地2
社会福祉法人 ゆきわり会
理事長 関 良



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 子供一人一人の移行を十分に尊重し、その自己決定と自己実現が図られるような子どもの権利擁護を基礎とした教育及び保育を行います。 2) 教育及び保育内容並びに子育て支援等に関する全般的な計画を作成します。 3) 特別な配慮の必要な園児への指導を行います。 4) 保護者に対する子育て支援を行います。 5) 健康支援を行います。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 素直に物事を吸収し、前向きに考えることができる。また、自分の意見だけではなく他の意見も柔軟に聞き入れ調整できる。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 素直に物事を吸収し、前向きに考えることができる。また、自分の意見だけではなく他の意見も柔軟に聞き入れ調整できる。

調査対象

調査は世帯単位で実施。

調査方法

調査票等は利用時に事業所経由で配布する形をとりました。回収は返信用封筒に調査票を入れ直接評価機関に郵送する方法をとり、利用者が気兼ねなく書けるよう配慮しました。

利用者総数

116

利用者家族総数(世帯)

104

共通評価項目による調査対象者数

104

共通評価項目による調査の有効回答者数

70

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

67.3

利用者調査全体のコメント

・総合的な感想において、「大変満足」と回答した方が33名、「満足」と回答した方が31名、「どちらともいえない」と回答した方は5名、「無回答・非該当」が1名で「不満」「大変不満」と回答した方は一人もおらず、たいへん高い満足度が示されました。

・個々の質問に対する回答状況を見ると、18問中5設問で90%以上の方が「はい」と回答しており、7設問で80%以上の方が「はい」と回答しています。個々の取り組みについても高い満足度が示されました。

・自由記述では37世帯から率直な意見が寄せられており、「安心して子どもを預けることができます。」「毎日子どもが楽しく通っていると子どもの姿や話しから感じています。」「先生方とても良い先生ばかりです。」など肯定的な意見が多数ありました。その他、「行事や準備してほしいものの連絡を早めにもらえるとよい。」などの要望もいくつか挙がっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	61	9	0	0
「はい」と回答した方が61名、「どちらともいえない」と回答した方が9名です。「いつも楽しかった」と満足げです。」などのコメントが挙がっています。				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	67	3	0	0
「はい」と回答した方が67名、「どちらともいえない」と回答した方が3名です。「色々な経験をさせてもらっていると思います。」などのコメントが挙がっています。				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	68	2	0	0
「はい」と回答した方が68名、「どちらともいえない」と回答した方が2名です。「楽しそうに活動について教えてくれるので、子どもの話を聞くのが楽しみです。」などのコメントが挙がっています。				

4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	57	12	1	0
「はい」と回答した方が57名、「どちらともいえない」と回答した方が12名、「いいえ」と回答した方が1名です。「メニューの工夫されていて、イベントや季節を感じるものになっています。」「献立に食事の画像がたまにあればいいと思います。」などのコメントが挙がっています。				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	58	11	1	0
「はい」と回答した方が58名、「どちらともいえない」と回答した方が11名、「いいえ」と回答した方が1名です。「月齢なども考慮していると思いますが、もう少し増やしてほしいです。」などのコメントが挙がっています。				
6. 保育時間の変更が急きょ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	59	7	0	4
「はい」と回答した方が59名、「どちらともいえない」と回答した方が7名、「無回答・非該当」が4名です。「当日の変更でも柔軟に対応してくれています。」などのコメントが挙がっています。				
7. 安全対策が十分取られていると思うか	57	12	1	0
「はい」と回答した方が57名、「どちらともいえない」と回答した方が12名、「いいえ」と回答した方が1名です。「細やかな対応をしてくれています。」などのコメントが挙がっています。				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	55	12	2	1
「はい」と回答した方が55名、「どちらともいえない」と回答した方が12名、「いいえ」と回答した方が2名、「無回答・非該当」が1名です。「前もって予定を教えてもらうため、休みを取りやすいです。」「スケジュール表が配布されるのが、もう少し早いともっとしっかり目を通せます。」などのコメントが挙がっています。				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	43	21	4	2
「はい」と回答した方が43名、「どちらともいえない」と回答した方が21名、「いいえ」と回答した方が4名、「無回答・非該当」が2名です。「先生には何でも相談できるので、とても信頼しています。」「話す機会が少ない。」などのコメントが挙がっています。				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	67	3	0	0
「はい」と回答した方が67名、「どちらともいえない」と回答した方が3名です。「いつもきれいな園です。」などのコメントが挙がっています。				

11. 職員の接遇・態度は適切か	61	9	0	0
「はい」と回答した方が61名、「どちらともいえない」と回答した方が9名です。「皆さん、毎日ニコニコと明るく、とても安心感があります。」「いい方もいるが、そうでない方もいる。」などのコメントが挙がっています。				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	64	6	0	0
「はい」と回答した方が64名、「どちらともいえない」と回答した方が6名です。				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	44	13	1	12
「はい」と回答した方が44名、「どちらともいえない」と回答した方が13名、「いいえ」と回答した方が1名、「無回答・非該当」が12名です。「子どもたちへの対応は信頼できます。」「そのような話を聞いたことがないので、判断しづらい。」などのコメントが挙がっています。				
14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	63	7	0	0
「はい」と回答した方が63名、「どちらともいえない」と回答した方が7名です。「子どもが先生のことが大好きなのがわかります。」「日常生活を知ることは難しいですが、いい関係性はできているかなと感じます。」などのコメントが挙がっています。				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	58	7	1	4
「はい」と回答した方が58名、「どちらともいえない」と回答した方が7名、「いいえ」と回答した方が1名、「無回答・非該当」が4名です。「日々の様子を見てもらってほしいと思います。」「そもそも知られたくないことは言いません。」などのコメントが挙がっています。				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	52	10	5	3
「はい」と回答した方が52名、「どちらともいえない」と回答した方が10名、「いいえ」と回答した方が5名、「無回答・非該当」が3名です。「面談等ないため不明。」などのコメントが挙がっています。				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	50	14	4	2
「はい」と回答した方が50名、「どちらともいえない」と回答した方が14名、「いいえ」と回答した方が4名、「無回答・非該当」が2名です。				

18. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	44	11	8	7
「はい」と回答した方が44名、「どちらともいえない」と回答した方が11名、「いいえ」と回答した方が8名、「無回答・非該当」が7名です。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリー1の講評		
	園が目指す方向は経営指針・基本方針へと保育事業に合わせて順序立てて整理されました 今年度の事業計画書から法人理念の次に全施設共通の経営指針が掲載されました。これにより法人内全施設共通の経営・運営スタンスがより明確になり理解し易くなりました。そして、それを受けて園の基本方針とその具体的取り組みが掲載されています。理念(概念・抽象)から取り組み(具体)へ、法人(全体)から園(個別事業)へと一連の流れが可視化されました。さらに、階層・職種ごとに役職者から一般職まで職務分掌として役割・責任・主な業務も明確化され、進むべき方向に向けてなすべきことが明確なストーリーとして可視化されています。		
	法人理念、園の方針は浸透度合いを把握しながら全体・個別に深めることが期待されます 理念・方針等が記載された事業計画書及び事業報告書は全職員に配布され、今年度下半期から昼礼の場で理念の唱和も始まりました。さらに、職員会議では理事長が直接理念・方針について説明する機会もあり全体共有の場が増えています。また、運用中の人事考課制度及び目標管理制度は理念・方針の実現に向けた職員各自の業務行動や結果を把握する為のものでもあります。今後は同制度の面接の場で職員各自の理解・浸透度合いの違いも確認しながら、個別に深めていくことも期待されます。この先求められるリーダーシップの形は個性へのアプローチです。		
	重要な案件は該当する会議体で検討・決定され共有すべきことは伝達されています 法人・園にとって重要な案件は、毎月定例で本部が主催する園長会議(各事業・施設の園長が出席)や運営会議(各施設の園長・副園長が出席)の中で検討・決定されています。うち共有・徹底すべき決定事項は園の職員会議並びにその議事録(会議を欠席した職員)でも共有されています。議事録は事務室の見やすい場所に保管・管理されいつでも見ることができ、かつ機密性も確保されています。また、園児・保護者に関係するお知らせについては、担任等から口頭もしくは手紙、通知配信用のアプリを通じて各家庭に伝達されています。		

カテゴリー2

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1(2-1)

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/6

評価項目1

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点(○○○○○●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
○あり ●なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

4/5

評価項目1

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(○○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目2

着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(○●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

園を取り巻く外部環境(福祉事業全体の動向)の組織的共有も期待されます

園の経営方針・具体的取り組み等はさらに長期・中期計画、単年度の取り組みへと展開されています。理念・方針のさらなる理解・浸透に向けては、園を取り巻く外部環境(業界の課題や行政動向等)と理念・方針との関係性を組織内共有することも有効です。それによって、事業計画や法人・園が決定したことに対する職員の理解も深まります。また、計画の見直しやさらなる具体化にも寄与します。福祉施設の社会的使命や事業の存在意義は外部環境の変化に如何に柔軟に対応するか、その貢献度が一つのバロメータにもなり、職員の働きがいにも繋がります。

事業計画書は前年度報告で掲げた次年度の具体的な取り組み事項の可視化が望めます

毎年度の事業報告書では、当年度計画(単年度の具体的な取り組み事項)の達成度合いを検証した結果を踏まえて、次年度の具体的な取り組み事項が立案されています。そのうえで次年度の事業計画書が策定されていますが、今年事業計画書には前年度の事業報告書で立案された具体的な取り組み事項の掲載がもれています。事業計画書は毎年度の期初に全職員に配布され、それら園全体で取り組むべきテーマを起点に年間の業務が展開され、職員各自の目標管理制度にも連鎖されています。年度の進むべきゴールや明確なテーマを示すことはマネジメントの基本です。

計画実行性を高める為単年度の取り組みでは達成度を測る指標の設定が期待されます

前年度の事業報告書でその年度の各取り組み事項が検証され、次年度の事業計画書に盛り込む取り組みへと繋がりますが、それら取り組みの到達点が「～を心がける」、「～に努める」、「～を図る」等の方向性を示す抽象的な表記に留まっています。その為、期中で進捗を把握することも期末に達成度を検証することが困難な状態にあります。計画は達成するためにあります。目指す到達点を数値化できるものは数値化(頻度、件数、%等)、数値化困難なものは到達点の状態を文章化することが望めます。全員参画での達成こそ働きがいの下地にもなります。

カテゴリー3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

2/2

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

4/4

評価項目1

利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

3/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(○●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
○あり ●なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

利用者への虐待防止、権利擁護に向けた組織的な取り組みがあります

園児への虐待防止、権利擁護の精神は法人理念・経営方針、園の基本方針にも明確化されており理解・浸透への取り組みもありますが、さらに「認定こども園SHINJO児童虐待セルフチェックリスト」を使用し2か月サイクルで自身の行動を振り返る取り組みもあります。雇用形態を問わず全職員が対象ですが、登園から降園までの場面ごとに5つの大項目に計29の詳細なチェック項目で行動の自己点検をする仕組みです。各自の行動改善に役立てることのみならず全職員の結果を集計し、レーダーチャート化し虐待防止委員会への活動にも繋げています。

利用者の意向を多様な方法で把握する組織的な実践があります

家庭からの意見・要望は、園長、副園長、第3者委員、主任で構成する「なんでも相談窓口」、年1回実施の利用者アンケート、本部主催の「苦情解決点検・連携委員会」で把握、改善する取り組みがあります。アンケート結果は改善策とともに事業報告書にも集計・報告されています。委員会活動では、各施設のオンブズマン、理事長、各施設長が出席する会議でオンブズマンが把握した全施設の意見・要望等と対策について共有・検討されています。なお、さらに踏み込んだ改善策立案に向けて利用者の声なき声を拾う為アンケートは無記名での実施も望まれます。

地域福祉へのさらなる貢献に向け地域関係機関のネットワークへの参画も期待されます

法人全体の社会貢献活動としてフードサポートをはじめとした5つの活動の実践があります。また、園独自に地域の未就学児や未入園の子どもたちに園を開放する「こどもえんであそぼう」、近隣の小学校と連携した「架け橋プログラム」や小学校と近隣の保育園が参加する「オアシス会議」にも参加しています。今後は、市内の事業者連絡会や施設長会等の地域関係機関のネットワークへの参画を通じて得た情報や他施設との連携にも期待が膨らみます。園単体でも新たな社会貢献活動の輪を広げることが地域での存在意義の醸成にもつながります。

4			リスクマネジメント		3/5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		3/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる					
評点(○○○●●)					
評価	標準項目				
○あり ●なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○非該当
○あり ●なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○非該当
サブカテゴリ2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		3/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている					
評点(○○○●)					
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している				○非該当
○あり ●なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○非該当
カテゴリ4の講評					
安心・安全な教育・保育のさらなる向上に向け組織的な活動の活性化が期待されます ヒヤリハットは記載後、上司に報告され現場での早急な対応の実施と並行して毎月リスクマネジメント委員会で対策の検証がされ、職員会議や報告書で共有も行われていますが、その報告件数は月1～2件程度に留まっています。園のリスクマネジメント機能のさらなる強化に向け、今後はヒヤリハット報告の質と量(件数)を増やすため、研修や報告書の簡略化などの工夫が望まれます。集計・分析では発生した場所や場面、時間帯などの視点で検証することも有効です。また、報告を上げる習慣をつけることは各自の危険予知能力の強化にも繋がります。 策定された事業継続計画は理解・浸透へさらなる取り組みが期待されます 法人共通の取り扱いとして、事業継続計画は非常災害時に加え感染症発生時の対応も盛り込まれ策定されています。また、各クラスに配布されています。有事の際に円滑に行動できるよう今後は研修や実地訓練(実践)と振り返り、見直しのサイクルを積み重ねていくことも望まれます。現在、園では年間計画に基づいて毎月各種の災害避難訓練が実施されています。今後は事業継続計画に盛り込んだ内容も加味して実施することも期待されます。地域の子育てを支援する園として災害に強い施設であり続けることこそ園の存在意義であり社会的使命なのです。 園が保有する各種情報についてさらなる活用・守秘の徹底に向けた工夫が望まれます 園児・家庭、職員、経営・運営に関わる各種の情報は、紙やデータで適切に管理・活用されています。一方で、それらをどこで誰がどのように管理しているかのルールが可視化されていません。その為、緊急でそれらの情報が必要な時にどこを探せばよいのか、また、書類や情報がいつ無くなったのかなどを追跡することが困難な状態にあります。解決に向けては、例えば法人で使用している「文書の保存期限」表の各情報の区分に「誰が、どの場所に、どういう方法で」管理しているかを可視化し、さらにそれを定期点検表として活用することも一考です。					

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1(5-1)

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

10/12

評価項目1

事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	☐ 非該当

評価項目2

事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	☐ 非該当

評価項目3

事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点(〇〇●●)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当

評価項目4

職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当

サブカテゴリ2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価

標準項目

◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

職員研修では組織内部のコミュニケーション活性化への取り組みも期待されます

女性の社会進出に伴い子育て支援の在り方が多様化し専門・高度な知識や技術が求められる時代にあつて、この先、職員研修の重要度も増していきます。現在、園ではシフトに配慮し、参加者を複数のグループに分けたり、外部研修ではオンラインを取り入れたりするなど、参加率を上げる工夫がされています。今後は、それらの知識・技術が実践に活かされ職員間の相乗効果をも引き出すよう、園内研修では事例検討など職員間のコミュニケーションやディスカッションをベースにした内容も有効です。世代間のギャップを強みに変えるマネジメントが望まれます。

人事考課制度並びに目標管理制度の結果は個人の育成へと役立てることが期待されます

保育業界も働き手不足の状態にあり、引き続き不安定な雇用情勢が推測されます。今後も有資格者であっても多様な人生経験を持つ職員が入職することが予想されます。また、働く女性の増加に伴いこれまで家庭で対応していた支援が必要な子どもたちの受け入れが増えることも予想されます。幅広くかつ高度な専門性が要求されてくる時代にあつて、研修等により全体・個別にさらなる職務遂行能力(知識・技能、言動等)の強化が求められます。人事考課・目標管理制度の結果を踏まえ、傾向を把握し全体及び個別の研修・教育の提供が大いに期待されます。

組織力向上と業務改実現に向け事業計画の目標も踏まえたマニュアル点検も期待されます

各種マニュアルは整備され、内容の共有も図られています。さらに、今後は事業報告に掲げられている単年度の具体的取り組み事項も踏まえ、例えばヒヤリハットに対する取り組みや安全点検への取り組みの一つとして関連するマニュアルの総点検を行うことも望まれます。見直しにあたっては事例検討の研修同様、コミュニケーション・ディスカッションを軸としたワークによって進めることで相互の保育感(多様性)の再認識や業務改善のヒントに気づくこともあります。単なるマニュアルの見直し作業が人材育成、組織的な相乗効果にも期待がひろがります。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度末に0歳児・1歳児で流行性胃腸炎が流行しました。罹患した園児全てがノロウイルスではありませんでしたが、同時の感染者数が多かったこともあり保健所の立ち入りがありました。これを受け、園児の健やかな成長を支援する為、園での生活にさらなる安全を確保し心身の健康の基礎を培う取り組みを行うこととしました。園児の嘔吐下痢に対しては、各家庭における対応も重要であることから保護者に喚起しつつ、園での取り組み(感染発生時)について手紙や口頭で伝え保護者からの理解・協力をしてもらうようにしました。さらに園でも嘔吐・下痢についての処理方法について、職員と看護師で協議を重ねマニュアルの見直しも行いました。

目標の設定と
取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

マニュアルの見直しにつなげ、組織的な徹底が促進されたこともあり、新型コロナウイルスや流行性胃腸炎の流行は完全に抑えられました。園内での対応については、以前までは対応(処置)する際は使い捨ての白衣・キャップのみ着用する対応でしたが、靴下を含めて完全に着替える対応が組織的に徹底されたことが奏功したと言えます。さらに、今後は発生時の迅速な対応を継続すると共に、次亜塩素酸水での消毒を徹底することとし、園児の体調管理や発達に関して保護者との確認も着実にを行うこととしました。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

過去数年続いたコロナ禍により園児が地域に外出する機会がかなり減ってしまいました。園児一人ひとりの興味・関心を導き、何事にも意欲的に取り組もうという力を醸成・支援する必要を感じました。公共の防災教育センターや地元のお祭りの展示場、演劇の鑑賞や近隣小学校との交流を実施しました。さらに、5歳児については外部の講師を毎月招き園内での「まなびタイム」を設け、小学校就学に向けての教育支援も行いました。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

近隣小学校との交流や園内での「まなびタイム」の実施により5歳児は学習意欲への刺激と共に小学校入学に対して期待が高まっています。また、園外への外出によって登園意欲や日常生活にも楽しみがもたらされたことを体感しています。この取り組みは今後も引き続き継続しようと考えています。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評価(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
ホームページでの情報提供がなされていますが、内容については改善の余地があります 当園のホームページは、こども園の紹介にて基本方針、教育・保育目標、園の概要が掲載され、施設の紹介にて建物内部の平面図が、こども園の活動にてデイリープログラムと年間行事が掲載されています。「わくわく日記」「子ども園からのお知らせ」で近況やトピックスが発信されています。しかしながら、当園の見学を考えている方や、園での活動や室内の環境設定など、園を選択する際に有効となる情報提供という点ではまだ改善の余地があります。園内環境や食事提供の内容など、写真を用いて提供するなど今後の工夫が期待されます。 当園を紹介するツールとして、イラストや写真を用いてリーフレットを作成しています 当園のリーフレットはB4版を三つ折りにしたもので、柔らかな色合いで親しみやすいイラストや写真を用いて作成しています。ホームページとリンクさせた内容にて、当園を紹介するツールとして見学者等に配布しています。情報が多く掲載されているため、かなり小さな文字となっているため、見やすさという点では工夫が必要と推察されます。また、当園を知っていただくことを目的として、園長自ら短期大学等に出向き、当園のチラシを渡して紹介しています。職員の獲得も視野に入れての取り組みも行われています。 活動の見学を希望される時は、10時30分に園にお越しいただくよう勧めています 見学希望は随時受け付けており、園長もしくは副園長や主幹が対応することとしています。電話での見学希望の問い合わせが入った時は、午前・午後のどちらを希望するかを確認し、活動の見学を希望される時は、10時30分に園にお越しいただくよう勧めています。リーフレットを渡して園内を案内し、当園の特徴である、広く明るい園舎であること、希望者は課外活動として英会話、スイミング、ピアノなどがあること案内しています。		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園前の面談にて、子どもに関する情報や保護者の意向を聞き取りしています 入園が決まると、市から保護者に通知が送られ、その後、保護者と連絡を取り合い、来園していただき事前の面談等を行っています。面談は現在の担任が行うこととしており、子どもに関すること、園への要望などを聞き取りしています。園生活については、重要事項説明書を兼ねた「入園のしおり」を用いて説明しています。面談で得た新入園児の情報については、各担当がメモを作成し、職員会議や昼礼にて情報共有を図っています。 「入園のしおり」は保護者がイメージしやすいよう工夫することも期待されます 入園の際に渡している「入園のしおり」は重要事項説明書も兼ねているため、運営の方針や教育及び保育の基本理念、利用料等についても詳しく掲載しています。その一方で、入園にあたり準備してほしい子どもの持ち物なども文章のみとなっているため、初めて園に預ける保護者にとっては、イラストや実物の写真などを用いることでイメージなどが伝わりやすいと推察されます。保護者のとってわかりやすい情報提供について改めて検討することも期待されます。 進級した際も不安に感じることなく、新たな環境に慣れていけるよう配慮しています 新年度を迎える時は、どのクラスも1名は持ち上がりで担任に着くこととしており、顔なじみの慣れた保育士が居ることで、進級した際も不安に感じることなく、新たな環境に慣れていけるよう配慮しています。当園は認定こども園のため、一号認定の子どもおりますので、一号認定の3歳児は2歳児クラスからスタートしてもらうこととしています。これは、年齢でのクラス配置にすると、同学年での卒園とならなくなってしまうため、同学年の友だちと一緒に卒園を迎えることができるよう考えた取り組みです。			

サブカテゴリー3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

12/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(○○○)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当

評価項目2

全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(○○○○●)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	☐ 非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(○○)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(○○○)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で送り送り・引継ぎ等を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、指導事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	☐ 非該当

サブカテゴリー3の講評

各種計画は、子どもの発達に合わせて多職種で確認し合い検討することが期待されます

全体的な計画にて当園の教育・保育の計画が作成され、この計画を基に、各クラスにて年間指導計画、月案、週案とねらいを持ち、子どもに対する教育・保育を行うよう取り組んでいます。各種計画については、保健計画、食育計画もありますが、年間指導計画との連動性が薄く、また、0歳児の年間指導計画は、教育の領域が5領域での作成となっており、3つの視点での策定が必要となります。子どもの成長における働きかけは、保育・健康・食育が一体となり進めていくことで、生活習慣や学びを習得できると推察されます。今後の検討が期待されます。

スムーズな小学校への移行を可能とする有効な取り組みが行われています

就学への準備期間における5歳児の取り組みと、小学1年生の姿を可視化した、「架け橋期のカリキュラム」が、幼保小連携のオアシス会議にて作成されています。「架け橋期のプログラム」は、目指す子どもの姿、学びのプロセス、園で展開される活動・小学校の単元構成、子どもの交流、家庭や地域の連携と、配慮事項として、先生の関わり・役割、環境構成・環境作りがまとめられています。園で取り組むこと、小学校で求める子どもの姿を共有することでスムーズな小学校への移行を可能とする有効な取り組みが行われています。

年間指導計画の期ごとの振り返りなどは実施状況にバラつきが散見されます

午睡の時間を利用して行われている職員会議では、会議開催前に当日使用する資料を職員に渡して置き目を通して会議に臨むよう工夫しています。この中で各クラスの様子などを確認しますが、年間指導計画の期ごとの振り返りなどはクラスによって実施状況にバラつきが散見され、さらに、保健や食育の年間計画はこれまで保育士との共有ができていない状況にあります。各クラスにて子どもに対する保育の振り返りを行い記録に残し、他の職員と共有することは園全体で一体感のある保育を行う上でも必要と推察されます。振り返りの確実な実施が期待されます。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
着替えの仕方は生活習慣として習得できるよう乳児の時から取り組むことが期待されます 個人情報の取り扱いについては、入園時に重要事項説明書内に記載されている内容と個人情報取扱書にて説明し、同意を得ています。プライバシーへの配慮としては、水遊びの時期はタープテントを立てて水遊びを行うなど、外部から直接目に触れることのないよう取り組んでいます。着替え方については、普段から裸になることなく上を脱いだら上から着るなど乳児であっても取り組むことで、自然と生活習慣として子どもが習得することが可能となり、自分の身体を大切にすることを学ぶことにもつながります。積極的に取り組むことが期待されます。 園での様子などを観察し、報告書をやり取りして現状の共有と検討が行われています 年3回、法人全体で虐待予防研修を実施し、不適切な対応とならないよう職員への周知が行われています。その他、市が配信していた研修も視聴し学びを深めるよう取り組んでいます。子どもの呼び名なども法人全体で意識を高め、子どもへの対応がなされるよう注意喚起を行っています。虐待が疑われるケースや経過観察が必要な家庭については、児童相談所など関係機関と連携を図り、園での様子などを観察し、月1回、報告書をやり取りして現状の共有と検討が行われています。			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
多岐に渡るマニュアルを作成し、業務の標準化を図っています 虐待防止、食物アレルギー対応、非常災害対策計画、送迎バス対応、感染症、出欠確認、防犯、園外保育、事故防止、食中毒予防、実習生受け入れ、新型コロナ対策、沐浴など、多岐に渡るマニュアルを作成し、業務の標準化を図っています。また、事業計画書にも後半に「SHINJOマニュアル」として、手続きやフロー図にて必要事項を明記しています。ノロウィルスに関することについては、4ページに渡り丁寧に対応方法等を掲載しています。また「食中毒・感染症防止カレンダー」にて年間を通して気を付けるべき感染症の流行時期を示しています。 重要事項説明書は、保護者との約束であるため、一般職員も確認することが期待されます 重要事項説明書を兼ねた「入園のしおり」は毎年当該年度のものを発行しています。実際に説明を行う管理職はその内容を把握していますが、一般職員はこの「入園のしおり」を目にする機会はあまり持っていない状況があります。重要事項説明書は、保護者との約束であり、園として取り組むべき内容が記されているため、職員も把握しておくことで保護者対応もスムーズに行うことができると推察されます。持ち物の示し方など現場職員の意見も参考にしながら、保護者にとっても職員にとってもわかりやすい内容となるよう見直しを行うことが期待されます。			

Ⅲ サービスの実施項目 (カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4																						
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 36/36																					
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>		評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している	○ 非該当	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○ 非該当	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している	○ 非該当	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当	●あり ○なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している	○ 非該当
評価	標準項目																					
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している	○ 非該当																				
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○ 非該当																				
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当																				
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している	○ 非該当																				
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当																				
●あり ○なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している	○ 非該当																				
評価項目1の講評 年齢のクラス配置を中心に子ども達の発達に応じた遊びや保育計画が展開されています 年齢毎のクラス構成で過ごしています。0.1歳児のクラスは月齢による発達の差や睡眠リズムの差に配慮し、保育室を仕切って使用するなど、子ども達の状態に合わせて過ごせるように空間を配慮しています。各保育室には季節感を感じられる子ども達の絵画製作等が展示されています。また遊戯室(プレイルーム)では各クラスごとに時間を割り振り交代して使用し、体操遊び、リズム遊びなども行われています。年長児が発表会の練習をしている様子を1歳児クラスが見に行ったり、他クラス他学年の子ども居合わせる異年齢交流の場にもなっています。 子ども同士、互いに違いを認め合える友だち関係の育ちを大切にしています 園には発達がゆっくりなお子さんや療育に通っているお子さんもいます。配慮が必要なお子さんに加配の保育教諭はついていますが、べったりとつききりに関わるのではなく、本人の気持ちを尊重して活動に参加できるように関わっています。その為「やらない」「やりたくない」という子どもの意思を受けて、皆と一緒に行わないという対応する時もあります。特別視して配慮するという関わり方はせず、個性として違いを認め合えるように保育をしています。子ども達も同じクラスで長年一緒に過ごしているので、違いを認め合える気持ちが育っています。 えいごのじかん、まなびタイムを保育活動に取り入れています クラスの名前にも「FIVE ROOM」「ONE ROOM」など英語名が採用されており、英語に触れる機会を取り入れています。月に3度英語教室の講師が全学年に英語を教えてくださいます。また年長児クラスには学研の講師が年24回来園し「もじ・ことば」「かず」「ちえ」を教えてくださいます。あそびを通して楽しく学ぶ機会があります。年長児はカリキュラムを経験することで小学校への関心や期待を広げたり、自信をつけられる機会のひとつになっています。外部講師の来園は、日々の生活のメリハリや刺激にもなっていると見受けられます。																						

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
◎あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
◎あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

家庭での様子は、保護者との連携アプリも活用して情報共有しています

保護者との連絡手段として情報共有アプリを活用しています。保護者にはアプリに体温等を入力していただいています。また登降園時に職員と口頭でもやりとりし、細やかに情報共有してお子さんをお預かりできるように努めています。欠席の連絡は電話でなくアプリの入力での連絡も可能ですが、病欠の場合は詳細を口頭で確認させていただき、子ども達の健康状態の把握や園内の感染症発生状況の把握にも努めています。登園受け入れの際には、職員が直接子ども達の表情(明るい、暗い)等も確認し、子ども達が安定して過ごせるようにしています。

生活リズムは個人差に配慮して、家庭での様子を保護者に伺いながら対応しています

睡眠、食事、排泄は個人差に配慮して家庭での様子を保護者に伺いながら対応しています。園では2歳後半頃からお箸で食べてみることを投げかけていますが、園主導ではなく家庭で使っているかの確認をして進めています。またトイレトレーニングは園での日中の様子をお知らせし、保護者と開始のタイミングを図って関わっています。午睡時間は0.1歳児12:10-15:00、2歳児12:45-15:00、3.4.5歳は13:00-15:00と長めにしっかりと休息時間を取っています。年長児は冬休み明けまで午睡があり、徐々に短くしています。

保護者にお子さんの様子を積極的に伝え、安心していただけるように努めています

コロナ以降の対応で、現在は保護者の送迎は玄関までとし、玄関でお子さんの受け渡しをしています。保護者にはお子さんの様子を積極的に伝え、安心していただけるように努めていますが、実際、送迎の時間は、職員は保育時間中の為、保育室を抜けて保護者に話をしに行くことが難しい現状があります。保護者からの「もっと先生と話したい」という声は受け止めており、只今対応の改善と工夫を試みようと検討されています。保育室付近まで入室できる以前の送迎の形に戻ると、保護者に保育の様子を直接見ていただければ、一層の安心度が上がると思われます。

3

評価項目3

日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

玩具のコーナーを複数設定し、こどもが遊びを選べるようにしています

子ども達に好きな玩具、遊びたい遊びを聞き、朝、夕などその時間に遊ぶ玩具を決めています。3-4種類くらいの複数用意し玩具コーナーを設定しています。3.4.5歳児は「あれで遊びたい」と伝えてくるので、子どもの声を受け入れ、尊重して玩具選びをしています。子ども達は玩具を収納してある場所や、玩具の種類がよくわかっており、保育者と話しながら遊びの環境を作っています。夕方など「テレビを見る」という保育の方法や要望も一部あるようですが、監視になってしまう保育は避けたいという考えがあり、一緒に遊ぶ関わりを大事にしています。

「さくらさくらんぼ」表現活動を通して、のびのびとはつらつに身体を動かしています

手足を動かすことで脳の活性化かを促す表現遊びを取り入れています。研修を受けた職員が関わり、他の職員にも伝承しながら取り組んでいます。ピアノの曲に合わせて、メダカ、トンボなどの動きを表現したり、体幹、身体のパランス感覚が育ちます。毎朝、5歳児は10-20分程身体を動かしています。音楽に合わせて動き、重ねて体験していく中で、側転が出来るようになる子どももいます。職員がお手本を見せると、子どものやってみたい意欲が沸き、「足がきれいに伸びているね」と上手にできたことを褒められる喜びがあり、子ども達の好きな活動です。

年長児の劇あそびごっこでは子どもの感性、ユニークな発想が活かされています

年長児は毎年「劇ごっこ」に取り組んでいます。保育の中で読んだ絵本から子ども達の表現活動、意欲を引き出し、劇ごっこにつながっています。子ども達の意見や発想をもとに先生も交えて相談し、子ども達が道具を工作したり、ペープサートを作製して演じています。職員は子ども達の意見や発想を大事にし、構成を考え作り上げています。子ども達も張り切って歌ったり、セリフを言う姿が見られ、自信につながっていることも感じられます。以前に行った「カレーごっこ」の劇では子どもの発想で「肉」を表現するというユニークさもありました。

25 / 32

4 評価項目4 日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
評価項目4の講評			
地域の催事、お祭りに参加し、体験や関心が広がるように関わっています 西部市で春と夏に行われるイベントに園児の作品を出展しています。園としてはそのイベントに出向いてはいませんが、ご家庭で、親子で見に行ってくださいに保護者にお誘いの声掛けをしています。また園内では子ども達が地域の祭りやねぶた祭に関心がもてるようにBGMや踊りなどを日々の保育に取り入れて関心が持てるようにしています。ねぶたの時期には、先生たちが作られたねぶたの飾りが園内に飾られたり、ねぶたの雰囲気盛り上がりします。祭りの環境作りは、子ども達の地域や地元への関心、愛着を持てることの一端を担っています。 りんご狩りを体験し青森ならではの地産地消にふれています 子ども達と「りんご狩り」を楽しんでいます。青森ならではの地域の特性を生かした取り組みです。園外保育はクラスごとに日を設定し、子ども達一人ひとりがじっくり取り組めるように、また職員も子どもの把握しやすい少人数のクラス単位で実施しています。りんご狩りで子ども達が取った、取り立てのりんごを持ち帰り、園で煮りんごを作ったり、りんごの食べ放題をたのしみしました。ご家庭にはりんごを使ったおやつのレシピをお伝えしたりしています。 サマーフェスティバルを開催し、園全体で取り組める行事を再開しています 全園児対象の親子参加行事で、土曜日の午前中に「しんじょう縁日」としてお祭りの形で開催しました。盆踊り、輪投げ、くじ引きなどを親子で楽しみました。駐車場スペースも活用し、落書きコーナー、ヨーヨー釣りなどの遊びも用意され、園内を広く使ってゆっくりたのしめるようにしました。コロナ明け全園児対象で行う初めての行事であったため、時間配分等難しい点もありましたが、参加率が上がるように計画していこうと先生方が考え取り組まれています。園全体で取り組める行事の再開、親子参加行事の幅を広げていこうと取り組まれています。			
5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
早朝、延長保育ではゆっくり過ごせる、くつろげる環境づくりを考えています 早朝、延長保育の時間は廊下部分の多目的ホールを活用しています。日中よりも園児の人数が少なくなる為、異年齢の合同保育で過ごしています。延長保育の時間はマットを出して寝転がったりもできるようにし、一日を過ごして遊び疲れている子どももゆっくりとくつろげるようにしています。子どもそれぞれが好きな場所で、好きな体勢で過ごせるようにしています。玩具もクラスに用意してあるものとは、違う種類のものを用意し、気分転換を図れるように保育を工夫しています。この時間は兄弟家庭は兄弟と一緒にゆったりと過ごせる時間にもなっています。 延長保育、土曜日保育も連絡をいただければ柔軟に対応しています 土曜日の保育希望は現在決まったご家庭が利用されています。普段利用しないご家庭でも、事前にご連絡をいただければお仕事以外でも用事などご事情に配慮して受け入れています。急な時間変更等も柔軟に対応しています。1号認定のお子さんの教育時間外の預かり保育の実施や一時預かり保育も実施しています。一時預かり保育は新型コロナウイルス以降利用者が減っている状況です。 プレイルームでの遊びを通して自然な異年齢交流が展開されています 遊戯室(プレイルーム)や多目的ホールは各年齢の保育室から出やすい園舎内の中央に位置されており、子ども達と先生が通りすがりや自然に出てきて交わる場所になっています。園として計画的に異年齢交流のプログラムはしていませんが、遊びの場所を共有する中で自然な異年齢交流の機会が作られています。年長児がキャンプごっこをして遊んでいるところに、保育者がスズランテープで「川」を作りました。そこに0歳児クラスの子がわっかにつかまりやってきて「川」に入り、年長児のキャンプ遊びに合流し、自然な交流でキャンプごっこを楽しめました。			

6 評価項目6

子どもが食事を楽しめるよう配慮している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

食事は一人ひとりに合わせた量を配膳し、楽しく食べられる環境作りをしています

給食は保育室で職員が盛り付けています。子どもの食べられる量や食事にかかる時間など、個々の状態を把握して配膳したり対応ができるようにしています。苦手な食べ物も「一つは、(一口は)がんばってたべてみよう」と関わり、食わず嫌いや食べてみたらおいしかったの気づきを促して関わっています。食べた量については、月齢の小さい子どもは連絡帳に記載し保護者にお知らせしています。大きい子どもは自分で話せるようになるので、親子で聞いてやりとりしてもらえるようにと考えています。年長は「食前の挨拶」を担当し、運ぶのは職員がしています。

地元の食材を取り入れて、栄養士が独自に献立をたて、自園調理をしています

青森県の郷土料理のせんべい汁や、りんご、すいか、もぎたてトマトなどの地産の食材を取り入れ、栄養士が独自に献立を立てています。園内の給食室で調理され、おやつも手作りで提供されています。りんごは色々な提供の仕方を工夫した結果、生が一番おいしいということにたどり着きました。飲み込みづらいものは、「すりりんご」にしたり、新鮮で繊維が残るものの時は、0.1歳児は「煮りんご」にして提供するなど工夫されて、子ども達の食べやすさを考えています。園で主食が出る日は栄養価の高い五分付米を提供しています。

地域と連携して、食育の取り組みを広げようと力をいれています

昨年度、県のはぐくみ食育プロジェクトを活用して年長児が「おにぎらず」を作りました。プロジェクトのスタッフさんが来てくださり、子ども達にバランスの良い食事について教えてくれるなど楽しく学ぶ機会とクッキングを楽しむ機会となりました。自分たちでおにぎりの具材を選んだり、色のバランスを考えてごはんの上に乗せてみたり楽しい体験となりました。今年度も実施を予定しており、今年は保護者参加型の開催を検討しています。また食育の取り組みとして園の近隣にある「ゆきわりの畑」をお借りし、大根やサツマイモの種まき、栽培もしています。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している		○ 非該当
◎あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○ 非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている		○ 非該当
評価項目7の講評			
園での発熱時は、お子さんの状態とご家庭の状況を考慮して対応しています 園で発熱が見られた場合は37.5℃以上の発熱で、家庭に連絡を入れています。平熱が高いお子さんは家庭の要望書を受けて38.0で対応するなど幅を持たせて対応しています。発熱時、体温が上がったからとすぐに家庭に連絡を入れることはせず、体温の発熱の傾向を見て、緊急を要する状態でない場合は、午前中様子を見て対応しています。家庭により事情が異なることにも配慮して対応しています。38℃以上発熱があった場合は厚生労働省の「保育所における感染症ガイドライン」に基づき、解熱後24時間以上経過後のお預かりとしています。 嘱託医と連携を取り、園児の健康管理に努めています 園内の歯科検診は年に2回、内科検診も年に2回実施しています。新型コロナウイルス流行前は歯みがき指導も実施していました。園で熱性けいれん等が発生した場合には嘱託医と連携し、指示を仰ぎながら対応するようにしています。発熱の場合、熱が下がってから24時間は様子を見ていただき、その後の登園にご家庭の協力をお願いしています。働く保護者からは24時間ルールにあたり様々なご意見、要望も出されていることは園も把握されています。園児の健康面、安全という点と、働く保護者の支援の両側面を考えながら、対応についてを検討中です。 食物アレルギーのお子さんは除去食の給食提供に対応しています 食物アレルギーの除去食に対応しています。食器は色別にして他と区別して安全に提供できるように確認をして配膳しています。現在はたまご、小麦粉、青魚に対応しており、家庭からの持参の形にはしていません。対象のお子さんには年1回ほどかかりつけ医でアレルギー検査をしてもらい、ご家庭にその結果を提出していただいています。また安全という観点から、園の給食時間は感染症対策としてまだ、パーティションを利用しています。感染症の拡大、予防については慎重に対応しています。			

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している
評価項目8の講評	
保護者面談は年間予定以外でも、随時話が出来るように柔軟に対応しています 進級時、複数担当の場合は前年担当が一人は持ち上がり、園児の様子が継続して見ることができるようになっています。面談は年に1回希望者に実施しています。クラス担任が対応しますが、場合により園長も同席します。面談の期間は年間予定で計画されていますが、「面談」という形に構えてしまうご家庭にも配慮し、随時話をする事も可能な対応をしています。送迎時に玄関先で話しをしたい保護者も多く、先生たちと話す機会を求めています。玄関の隣りにある職員事務室から園長先生も常に保護者の様子を気に掛けて声を掛けたり、見守っています。 懇談会や行事を通して、保護者同士の交流の場を設け始めています 新型コロナウイルスが五類になり、保護者を交えた色々な園行事が再開されています。参観日を二日間設けました。クラスごとに、平日の午前中に実施しました。3.4.5歳児クラスは保護者懇談会も実施しています。年度初めの懇談会では、年間の保育の見通しをお伝えしたり、行事についての説明をさせていただいています。夏期保育以降には0.1歳児クラスの保護者懇談会も計画しています。「保護者会」という形での集まりはありませんが、懇談会や行事の機会を通して保護者同士の横のつながりの場が出来るようにと考えています。 現在、登降園は玄関でお子さんの受け入れをしていますが見直しの時期と考えています 現在はコロナ流行時の感染対策の延長で、保護者は玄関までの出入りとなっています。玄関に一人職員が滞在し、保護者のお迎えが来たらクラスに放送で知らせて子どもが玄関に来るというスタイルで受渡しをしています。その為、保育室に展示されている園児の製作や絵画作品を保護者が直接目にする機会が持てていません。送迎時に様子を伝えることが十分にできていないのではという職員の思いもあるようです。5類になり、保護者からの要望もあり、園は送迎の場所を見直す時期と考えています。互いにより良い形に変化していくことが期待されます。	

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
地域の小学校との体験交流など就学に向けた取り組みが計画的に実施されています 年長児の小学校教育への円滑な接続に向けて、かけはしプログラムが計画的に取り組まれています。年間を通して小学校との交流会、小学校教員の園訪問等が行われています。職員は複数の連携会議の機会を持ち、また年長児は、小学校の運動会の予行練習に参加したり、学習発表会等に見学に行くなどしています。交流会では学校内の探検をしたり、ランドセルを背負ってみる、机に着席し文字を書き写す等を体験でき、その時は一年生が対応してくれます。年長児にとって小学校との交流を通して小学校に行くことに対する意欲を高める機会になっています。 「こどもえんであそぼう」を実施し、未就園児家庭への遊び場を提供しています 年に数回、地域の未就学園児親子を対象に、「こどもえんであそぼう」を実施しています。平日の午前中に開催し、季節の遊びや製作活動、リズムあそびなどをして過ごしています。こども園での生活や園児に触れる機会もあり、同じ月齢のお子さんのことを知ったり、こども園の生活を体験したりできます。参加された保護者は子育てについての悩み、また困ってはいなくてもちょっとした話などを保育教諭と話したりできる子育て相談ができます。子育て中の保護者のお手伝いをしています。参加された保護者同士の子育て情報交換の場、交流の場になっています。 英会話、スポーツ教室等、希望者は課外活動の利用ができます 園児の希望者に「英会話」「スイミング」「スポーツ教室」「ピアノ教室」の課外授業を提供しています。保育時間の終わりや合間に園内のスタディールームやプレイルームにて行っています。習い事をさせたいけれど、仕事が忙しくて時間的に難しいという保護者にとっては、通わせやすい環境になっています。保護者支援の一つとして当園の特徴となっています。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-3-2	全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している
タイトル①	スムーズな小学校への移行を可能とする有効な取り組みが行われています	
内容①	就学への準備期間における5歳児の取り組みと、小学1年生の姿を可視化した、「架け橋期のカリキュラム」が、幼保小連携のオアシス会議にて作成されています。「架け橋期のプログラム」は、目指す子どもの姿、学びのプロセス、園で展開される活動・小学校の単元構成、子どもの交流、家庭や地域の連携と、配慮事項として、先生の関わり・役割、環境構成・環境作りがまとめられています。園で取り組むこと、小学校で求める子どもの姿を共有することでスムーズな小学校への移行を可能とする有効な取り組みが行われています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	年長児の劇あそびごっこでは子どもの感性、ユニークな発想が活かされています	
内容②	年長児は毎年「劇ごっこ」に取り組んでいます。保育の中で読んだ絵本から子ども達の表現活動、意欲を引き出し、劇ごっこにつながっています。子ども達の意見や発想をもとに先生も交えて相談し、子ども達が道具を工作したり、ペープサートを作製して演じています。職員は子ども達の意見や発想を大事にし、構成を考え作り上げています。子ども達も張り切って歌ったり、セリフを言う姿が見られ、自信につながっていることも感じられます。以前に行った「カレーごっこ」の劇では子どもの発想で「肉」を表現するというユニークさもありました。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-2-2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル③	利用者への虐待防止、権利擁護に向けた組織的な取り組みがあります	
内容③	園児への虐待防止、権利擁護の精神は法人理念・経営方針、園の基本方針にも明確化されており理解・浸透への取り組みもありますが、さらに「認定こども園SHINJO児童虐待セルフチェックリスト」を使用し2か月サイクルで自身の行動を振り返る取り組みもあります。雇用形態を問わず全職員が対象ですが、登園から降園までの場面ごとに5つの大項目に計29の詳細なチェック項目で行動の自己点検をする仕組みです。各自の行動改善に役立てることのみならず全職員の結果を集計し、レーダーチャート化し虐待防止委員会への活動にも繋げています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	就学移行に向けた小学校との連携した取り組みが計画的に実施されています
	内容	年長児の小学校教育への円滑な接続に向けて、プログラムが計画的に取り組まれています。年間を通して小学校との交流会、小学校教員の園訪問等が行われています。職員は複数の連携会議の機会を持ち、また年長児は、小学校の運動会の予行練習に参加したり、学習発表会等に見学に行くなどを行っています。交流会では学校内の探検をしたり、ランドセルを背負ってみる、机に着席し文字を書いている等を体験でき、その時は一年生が対応してくれます。年長児にとってこれらの交流を通して小学校に行くことに対する意欲を高める機会になっています。
2	タイトル	サマーフェスティバルを開催し、園全体で取り組める行事を再開しています
	内容	全園児対象の親子参加行事で、土曜日の午前中に「しんじょう緑日」としてお祭りの形で開催しました。盆踊り、輪投げ、くじ引きなどを親子で楽しみました。駐車場スペースも活用し、落書きコーナー、ヨーヨー釣りなどの遊びも用意され、園内を広く使ってゆっくり楽しめるように工夫しました。「しんじょう緑日」はコロナ明け全園児対象で行う初めての行事であったため、時間配分等難しい点もありましたが、参加率が上がるよう計画しました。今後も園全体で取り組める行事の再開、親子参加行事の幅を広げていこうと取り組まれています。
3	タイトル	プレイルームでの遊びを通して自然な異年齢交流が展開されています
	内容	遊戯室(プレイルーム)や多目的ホールは各年齢の保育室から出やすい園舎内の中央に位置されており、子ども達と先生が通りすがりや自然に出てきて交わる場所になっています。園として計画的に異年齢交流のプログラムはしていませんが、遊びの場所を共有する中で自然な異年齢交流の機会が作られています。年長児がキャンプごっこをして遊んでいるところに、保育者がスズランテープで「川」を作りました。そこに0歳児クラスの子が輪っかにつかまりやってきて「川」に入り、年長児のキャンプ遊びに合流。自然な交流でキャンプごっこを楽しめました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員個別の知識・技能、職務行動の向上と改善にむけ人事考課結果の活用が望まれます
	内容	他産業同様、全国的に福祉人材の雇用流動化も進行しています。福祉を担う新卒人材も減少傾向にあり、様々なキャリアを経験した中途採用者が増えています。利用者・家族の福祉サービスに対する意識も変わりつつあります。法人では権利擁護の精神が大切な位置づけとして掲げられていますが、権利擁護はより利用者個人への細かな対応が求められる面があります。職員の力量の多様化と利用者サービスの個別対応を同時に解決へと向けるため、人事考課・目標管理制度の個人結果を個別教育へ展開させ、個別対応力の強化へとつなげることへ期待が膨らみます。
2	タイトル	各種計画のつながり、職員間での共有、期ごとの振り返りなど丁寧に行うことで一体的な保育となるよう取り組むことが期待されます
	内容	全体的な計画から各クラスの年間指導計画、月案、週案、保健計画と食育計画は、教育の領域が5領域での作成となっており、3つの視点での策定が必要となります。各種計画の職員間での共有や振り返りという点でも十分ではない状況が見受けられます。園全体でどのようなねらいを持ちクラスでの保育が行われているのかを共有していくこと、保育・健康・食育が一体となり進めていくことで、生活習慣や学びを習得できる環境をより一層整えることができるよう取り組むことが期待されます。
3	タイトル	保護者にその年齢に応じた教育・保育がどのように行われているのか、について発信する方法を検討することが期待されます
	内容	園の取り組みは、毎月発行している「園だより」にて保護者に発信していますが、各クラスの取り組みはトピックがあるクラスが掲載されているため、クラス内での活動や子どもの様子を知る機会としては少ない印象があります。また、コロナ禍から保護者は各クラスへの入室は禁止されていたため、クラス内の環境設定など見る機会がない状況にありました。各クラスの保育のねらいを保護者と共有することは指針でも求められています。保護者にその年齢に応じた教育・保育がどのように行われているのか、について発信する方法を検討することが期待されます。